

平成29年度第3回岡崎市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

日 時：平成30年2月13日（火）午後2時～午後3時35分

場 所：岡崎市役所西庁舎1階 101号室

出席委員：10人

石川春次（委員長）、杉浦美智江（副委員長）、武田正道、青山千恵子、
平松文子、林幸江、後藤典子、内田美香、伊豫田守、荻野考史

欠席委員：牧野聡子、福島有里子

事務局等：7人（こども育成課6人、学校指導課1人）

傍聴者：0人

- 1 委員長あいさつ
- 2 議題
 - (1) 前回討議内容の進捗報告
 - (2) 放課後児童クラブの待機児童について
- 3 その他
報告事項等

議題1 前回討議内容の進捗報告

事務局から資料によって説明

<以下、各委員の意見等>

(1) 放課後子ども教室地域ボランティアの充実

委員：チラシを作成して運営委員会に呼びかけるというのはいいことだと思うが、受け入れ側として、こどもの家に常駐する指導員はどの程度の理解があるのか。

事務局：こどもの家の指導員については、会議や研修会の場で説明していき、統一的な対応ができるようにしていく。

委員：私の学区は実施する学区の一覧に載っていないが、人がいない等の理由で実施が無いということか。

事務局：毎年、4～5学区のペースで実施学区を増やしており、こどもの家のある43学区のうち、平成30年度時点で実施する学区は38学区である。平成31年度には全ての学区で実施できる予定である。

委員：小3の息子が、小学校から「学区の素敵な人探し」というチラシを貰ってきて、学校に呼んで話を聞いてみるという内容だった。このように、細かく聞いてみるというのも良いのではないか。

事務局：現段階では、そのようなアイデアを持っていないが、まずはこどもの家の運営委員会を通じて周知を図りながら、他の地域団体にも呼びかけていきたい。また、自ら応募してくる方は少ないと思うので、特技ある人の情報があればこちらからアプローチをしていくことも考えていきたい。

委員：小学校でもそのような情報を持っている。こどもの家から小学校に聞いてもらえば、情報が出てくるところもあるのではないか。ただし、実際の調整については、こどもの家でやってもらいたい。

委員長：PTAの会議などいろいろな場で、こういった制度があるということを説明していくのが大事である。

委員：活動の時間帯として、仕事を持つ人にとっては平日の夕方は難しいと思う。チラシの主な活動にいろいろ書いてあるが、料理というのがあるのもいいのではないか。子どもは料理を手伝うのも好きだと思う。

(2) 額田地域放課後子ども教室について

委員長 : 屋内運動場に学習室や会議室があるのは額田地域だけか。

事務局 : 額田地域の小学校を4か所確認したところ、夏山小学校と下山小学校については、放課後子ども教室に適した場所があった。一方で、形埜小学校と宮崎小学校については、倉庫のような部屋はあったが、放課後子ども教室にそのまま活用するのは難しい状況だった。

委員 : 保育園でも、土曜日を利用する場合に木曜日までに連絡をしてもらって、先生の確保をするということをやっている。利用状況を見て開かないこともあるということだが、指導員の収入が無くなってしまっても困ると思うので、課題として考えておいて欲しい。

委員 : どちらの小学校も児童数が20人程度ということで、必要な人がどれくらいいるのか分からないと思うが、額田地域だけ無いというわけにはいかないのだから、やってみるしかないと思う。

委員 : 児童育成センターの機能も含むということで良いか。

事務局 : おやつを提供もなく、児童の自主的な活動が中心であるため、児童育成センターとは異なる。ただし、保護者が家にいない児童に対して、保護者のお迎えまでの安全な居場所を確保する役割も持っているため、児童育成センターの機能の一部を持っていると言える。また、「おかざきっ子 育ちプラン」では、平成31年度までに全ての学区で放課後子ども教室を実施し、放課後児童クラブの無い学区については、放課後子ども教室で居場所を確保するとしている。したがって、額田地域については、児童育成センター寄りの放課後子ども教室になるのではないかと考えている。

委員 : 小学校内でやるということで、怪我が発生したときに、どちらで発生したのか分からないというのが心配だ。特別な配慮が必要な子どもについて、事故が発生するということも聞くので、日誌等でしっかり運用する必要がある。

委員長 : 細川小学校と城南小学校でやっていたときには、下校時に全員を運動場に並ばせて、放課後子ども教室に参加する子どもを区別し、そこからは放課後子ども教室で管理するようにしていた。管理責任については、明確にする必要がある。

委員 : 碧南市で、教員になる前の大学生が、ボランティアとして学校で社会科を教えているという話を聞いた。大学を窓口で、教員になる手前の大学生を募って、

子ども達に教えてもらうのはどうか。

事務局： 教員を目指す学生限定ではないが、現状、岡崎女子大学・短期大学の学生や岡崎東高校の生徒が団体で登録し、活動に参加している。どちらも相手方からの申し出がきっかけで始まった。望みのありそうな団体に、こちらからアプローチをかけるということは、今までやれていないため、今後取り組んでいきたい。

委員： 他市で、学校に入っているボランティアが、子どもに悪戯をしたという事件があった。ボランティアは助かることもあるが、取り返しのつかないことになる可能性もあるので、十分に気を付ける必要がある。先ほど意見があったように、大学と連携しており、大学側にも責任が持たれるようであれば良い。ボランティアの応募があったときに、誰が見極めるのかが決まっていないと、何かが起きたときに、責任が宙に浮いてしまうのではないか。

委員： 大学生の受け入れをやったことがあるが、大学は授業の一環で実習のような形でやっている。短大は、授業としてならいいが、それ以外でとなると時間がないのではないか。

委員： 矢作東学区は、民間児童クラブがあることで児童育成センターがない。こどもの家の利用者が多く、学年ごとに利用時間を分けるなどの対応をしており、指導員が1人では厳しいという声もある。

事務局： 矢作東学区は、民間児童クラブが先にあり、共存していく必要があるため、児童育成センターを整備できていない。児童育成センターは遊びの場としてこどもの家を使用するため、こどもの家の利用者数は変わらない。対策として、こどもの家を新たに作ることはできないため、時間を区切って利用していただくしかない。また、指導員の数は、現在、2人体制をとれている。

議題2 放課後児童クラブの待機児童について

事務局から資料によって説明

<意見等はなし>

その他 報告事項等

(1) 放課後児童の居場所づくりへの協力について

伊豫田委員から平成29年度第2回岡崎市総合教育会議で説明された内容について報告（本市における余裕教室の実態、岡崎市児童育成センターの整備に係る小学校教室の活用基準等）

- (2) 今後の会議について
現在の委員の任期中に次回の会議予定は無し

午後 3 時35分終了